

守山企業景況調査報告書

(第28回)

平成28年7月～平成28年9月期 実績

平成28年10月～平成28年12月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 28 年 7 月～平成 28 年 9 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 71 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	19	95.0%
製造業	13	13	100.0%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	20	18	90.0%
卸売業	6	6	100.0%
合計	71	67	94.4%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 28 年 7 月～平成 28 年 9 月、見通しを平成 28 年 10 月～平成 28 年 12 月とし、調査時点は平成 28 年 10 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成 28 年 7 月～9 月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果は DI 指数（景気動向指数）を用いて示している。

DI は、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DI が±0 の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆に DI がマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成 28 年 7 月～9 月期の調査結果では、売上高、業況、採算、資金繰りの主要 4 指標で前回調査より数値が低下した。

<業況>

業況 DI は▲25.4 で前回調査の▲21.9 から 3.5 ポイント低下した。業種別では、小売業▲36.8（前回調査比▲19.2）、製造業▲7.7（前回調査比+17.3）、建設業▲36.4（前回調査比▲18.2）、サービス業▲16.7（前回調査比+11.1）、卸売業▲33.3（前回調査比▲16.6）と製造業、サービス業が上昇した。

10 月～12 月期見通しは全体で▲22.2 であり、わずかに改善の見込である。

<売上高>

売上高 DI は▲31.3 で前回調査より 12.8 ポイント低下した。業種別では、小売業▲42.1（前回調査比▲42.1）、製造業▲15.4（前回調査比▲23.1）、建設業▲18.2（前回調査比+1.8）、サービス業▲38.9（前回調査比+11.1）、卸売業▲33.3（前回調査比±0.0）であり、小売業、製造業の低下とそれ以外の業種の上昇または横ばいという構図になった。

10 月～12 月期見通しは全体で▲27.3 となっており、わずかに改善の見込である。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DI は▲26.9 で前回調査より 2.3 ポイント低下した。業種別では、小売業▲42.1（前回調査比▲14.3）、製造業±0.0（前回調査比+8.3）、建設業▲18.2（前回調査比±0.0）、サービス業▲33.3（前回調査比±0.0）、卸売業▲33.3（前回調査比±0.0）で製造業が上昇している。

10 月～12 月期見通しは全体で▲29.2 であり、今回調査実績から低下している。

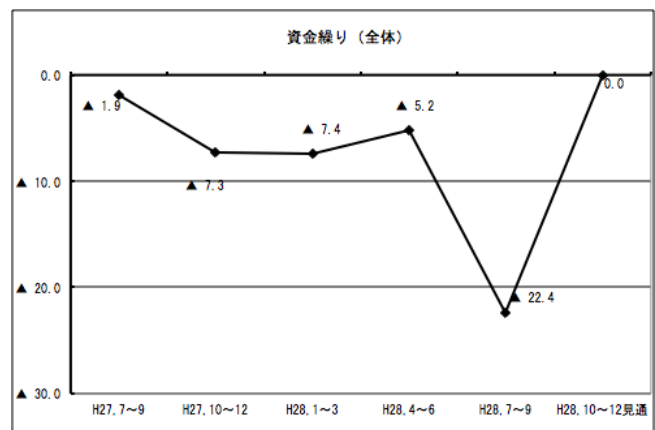
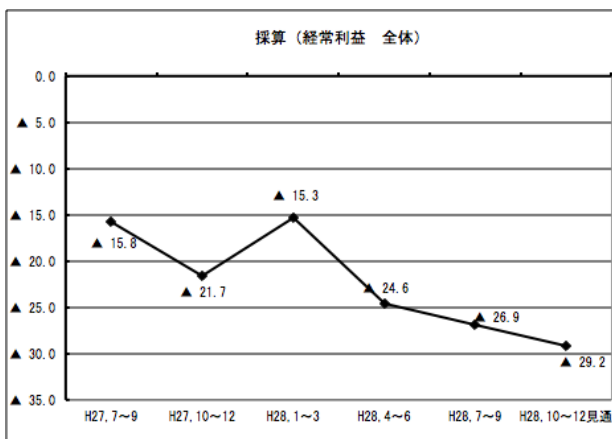
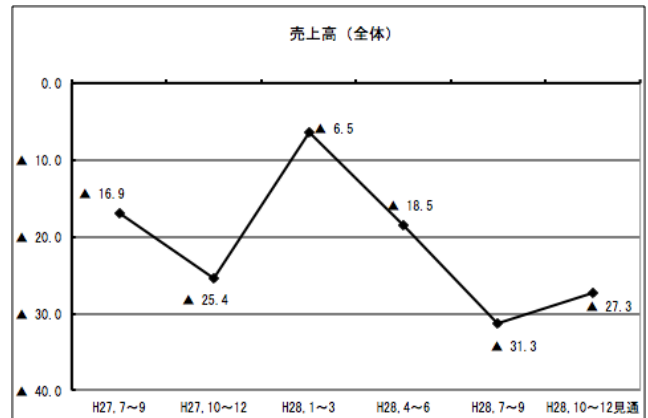
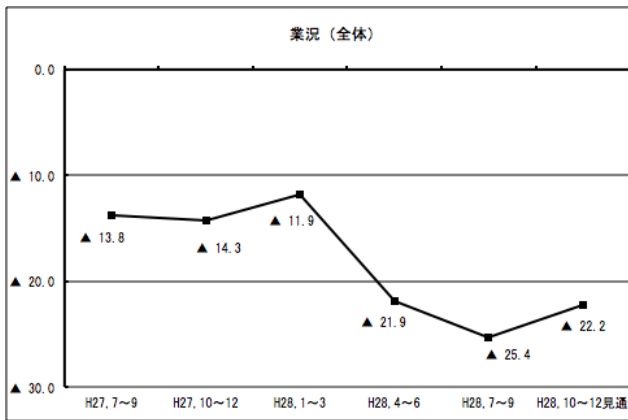
<資金繰り>

資金繰り DI は▲22.4 で前回調査より 17.2 ポイント低下した。業種別では小売業▲36.8（前回調査比▲30.5）、製造業▲11.1（前回調査比▲11.1）、建設業▲30.0（前回調査比▲30.0）、サービス業▲14.3（前回調査比▲1.0）、卸売業 0.0（前回調査比±0.0）であった。

10 月～12 月期見通しは全体で 0.0 であり、今回調査実績から上昇している。

<その他の意見>

- ・ これからは、守山市北部先端地区から守山市の中心に向かって誰もが来て良かった、綺麗で便利な守山市になるようにしていただきたい。
- ・ インターネットの発達は商業（路面型）を根絶すると思う。政府の思いがインフレ（デフレ脱却）指向ならインターネット商法に規制をかけるべきである。



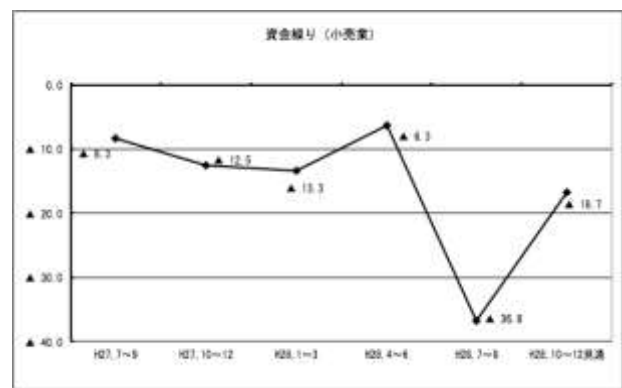
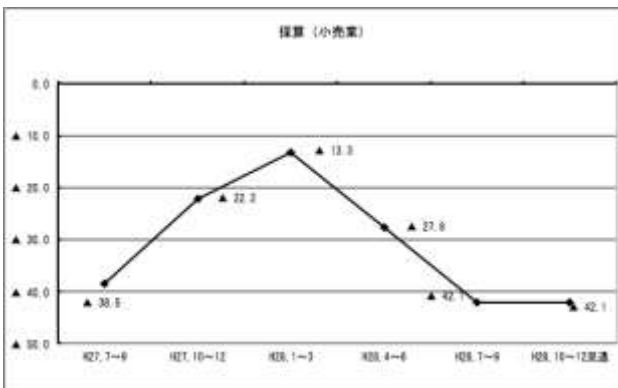
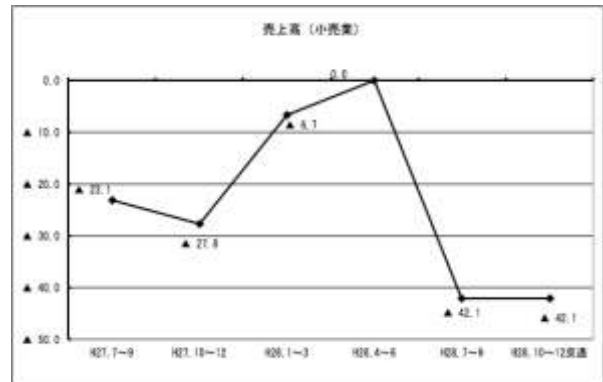
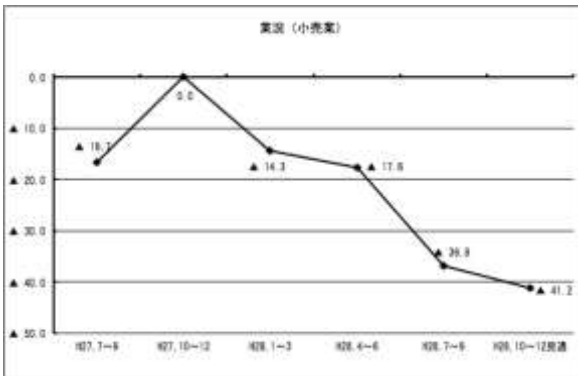
小売業

小売業の業況 DI は▲36.8 で前回調査より 19.2 ポイント低下した。3 四半期連続の低下である。平成 27 年 10 月～12 月期に±0.0 まで回復したが、平成 28 年に入ってから下降が続いている。10 月～12 月期見通しも▲41.2 で平成 28 年中は回復が見られそうにない。

売上高 DI は▲42.1 で前回調査より 42.1 ポイント低下した。過去 2 四半期連続で指標が上昇していたが、7 月～9 月期は一気に下降している。客単価、客数ともに減少という回答が多かったため、消費自体が冷込んだようである。10 月～12 月期見通しも今回実績と同じ▲42.1 であり消費回復は見込まれていない。

採算 DI は▲42.1 で前回調査より 14.3 ポイント低下した。売上が低下したことが採算の悪化に直結しているようである。10 月～12 月期見通しも今回実績と同じ▲42.1 である。

資金繰り DI は▲36.8 で前回調査より 30.5 ポイント低下した。資金繰り DI がここまで大きく下がることは本調査では稀なので、資金繰りは厳しい状況に陥っていると考えられる。10 月～12 月期見通しは▲16.7 で 20.1 ポイント回復している。



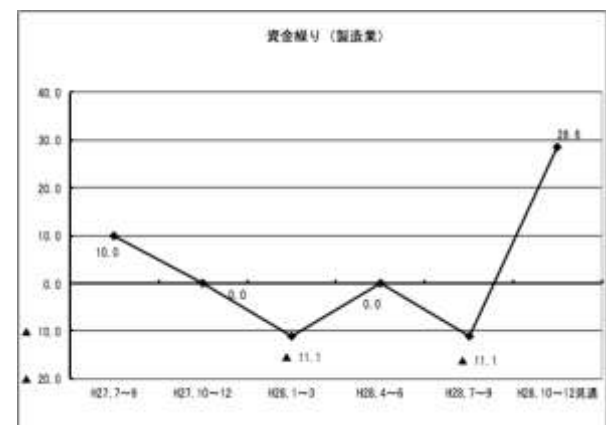
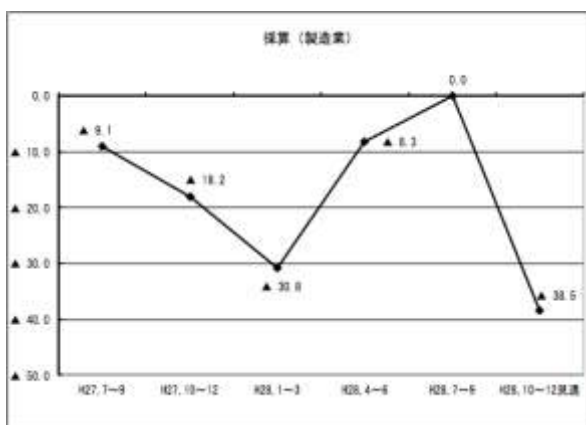
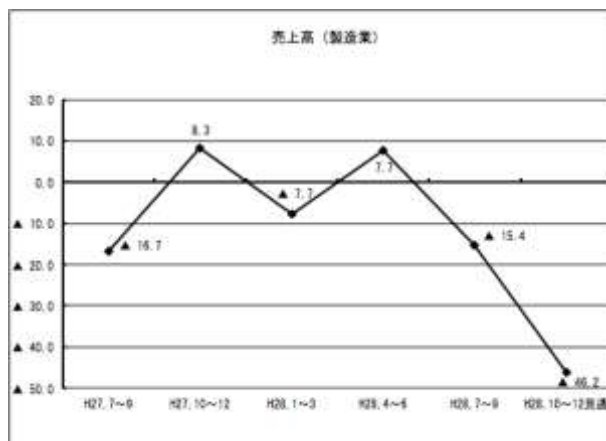
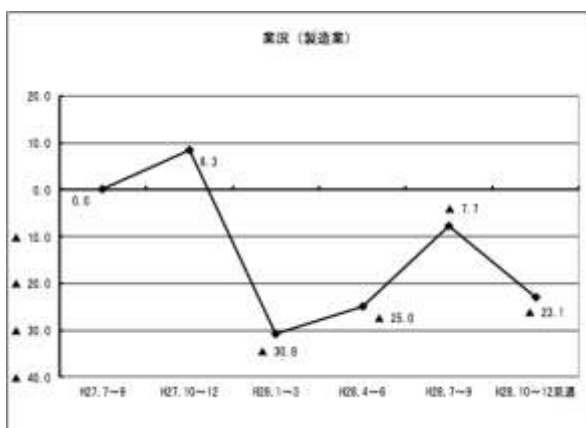
製造業

製造業の業況DIは▲7.7と前回調査に比べて17.3ポイント上昇した。前回調査に続き2四半期連続の上昇である。しかし、まだ±0.0まで到達しておらず、製造業の業況は平成28年に入ってからマイナスの数値が続いている。10月～12月期見通しは▲23.1で今回実績を大きく下回っており、製造業の見通しは明るくない。

売上高DIは▲15.4で前回調査より23.1ポイント低下した。前回調査同様に売上高は上下を繰り返しているようで安定的に売上高の上昇が見込める状態ではないようである。10月～12月期見通しは▲46.2と大きく下げており、不安材料がかなり多いようである。

採算DIは±0.0で前回調査より8.3ポイント上昇した。前回調査までの1年間はマイナスの数値が続いていたので今回調査の結果は明るいと言える。しかし、10月～12月期見通しが▲38.5と大きく下ぶれていることが気掛りである。

資金繰りDIは▲11.1で前回調査より11.1ポイント低下した。この低下幅は通常の数値ぶれの範囲とも言える。10月～12月期見通しが28.6と大きく改善していることから、製造業の資金繰りに問題はなさそうである。



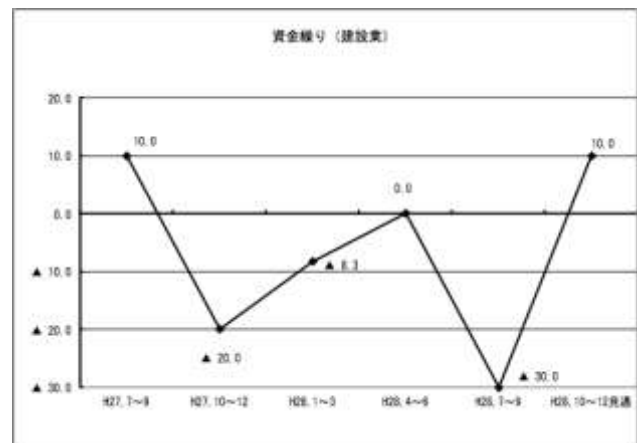
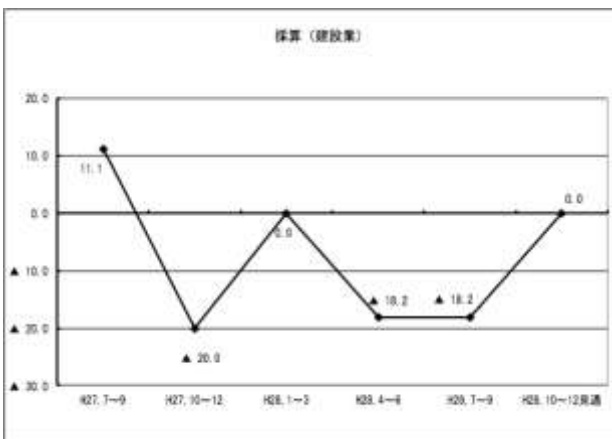
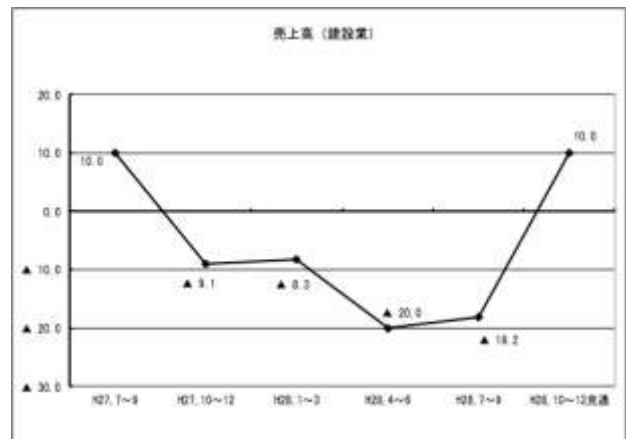
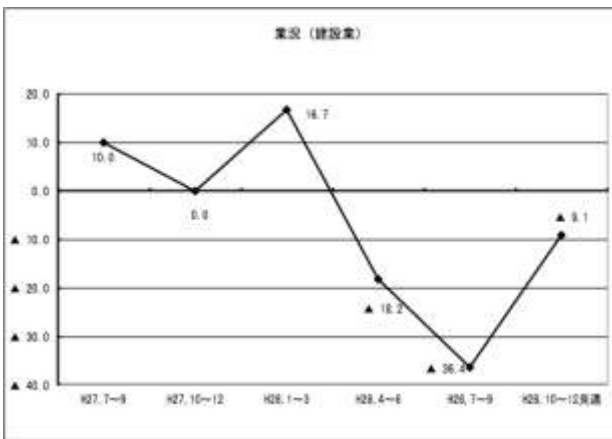
建設業

建設業の業況DIは▲36.4であり前回調査より18.2ポイント低下した。これで2四半期連続の低下であると同時に2四半期連続でマイナスの数値になった。10月～12月期見通しは▲9.1と上昇しているのこれから回復していくことが見通されている。

売上高DIは▲18.2で前回調査より1.8ポイント上昇した。しかし、平成27年10月～12月期から4四半期連続でマイナスの数値であり、全体的にここ1年間は売上高が伸びていないようである。10月～12月期見通しは10.0と回復しており、この先が期待されている。

採算DIは▲18.2で前回調査と同じ数値であった。売上高がわずかに回復しているものの採算を好転させるほどのインパクトはなかったようである。10月～12月期見通しは±0.0であるので、採算もこの先から期待である。

資金繰りDIは▲30.0で前回調査より30.0ポイント低下した。資金繰りが▲30.0となるのは資金繰り不安が出てきていると考えられる。10月～12月期見通しは10.0であり、資金繰りもこの先からの回復が期待されている。



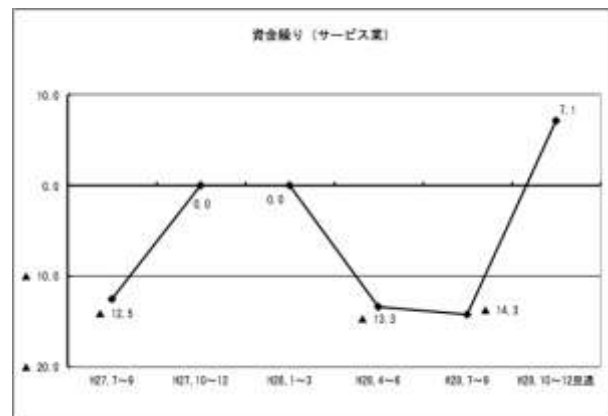
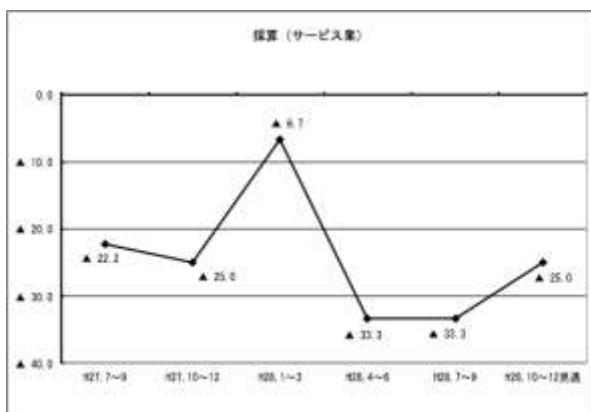
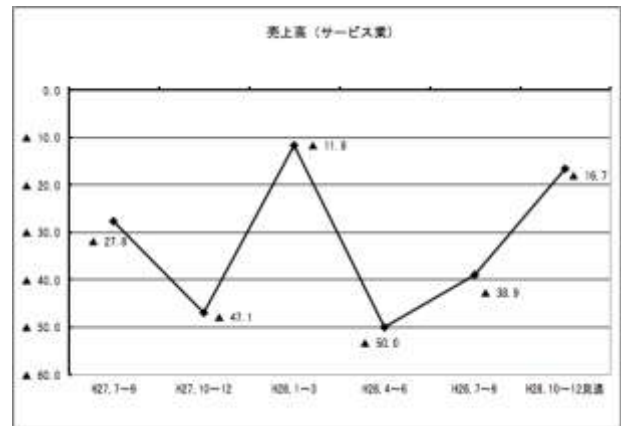
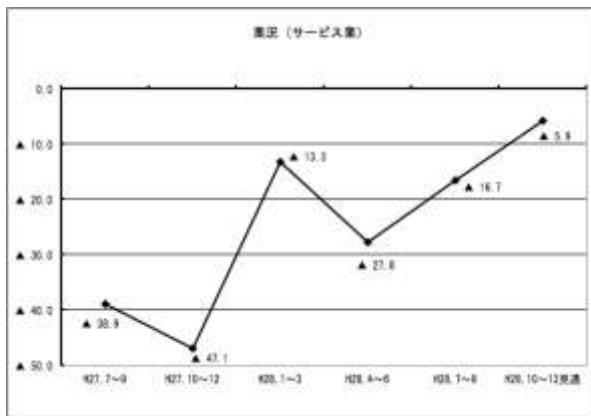
サービス業

サービス業の業況DIは▲16.7で前回調査より11.1ポイント上昇した。前回調査時点で低下した数値が少し回復した。長いトレンドで見ると全体的に業況は回復路線を歩んでいるように見える。10月～12月期見通しは▲5.9と今回実績よりさらに上昇しており、見通しは明るくなってきている。

売上高DIは▲38.9で前回調査より11.1ポイント上昇した。前回調査で大きく下げた売上高DIが少し回復している。10月～12月期見通しが▲16.7であるので、全体としては明るい方向に向いているようである。

採算DIは▲33.3で前回調査と同じ数値であった。売上高や業況が回復の兆しを見せている中で採算は変わりがなかった。しかし、10月～12月期は▲25.0と少し回復しており、採算が好転する兆しを見せている。

資金繰りDIは▲14.3で前回調査より1.0ポイント低下した。ほぼ横ばいと言える数値である。10月～12月期見通しが7.1と資金繰りも他の指標と共に明るい兆しが出てきているので来期以降に期待がかかる。



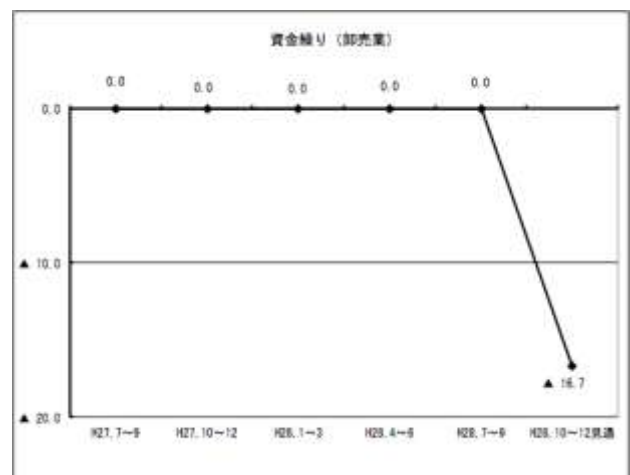
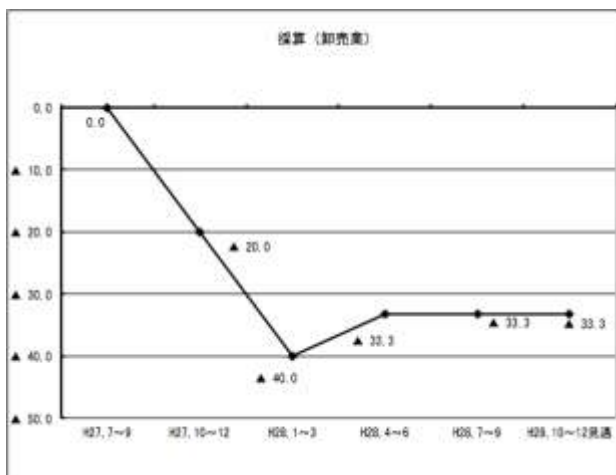
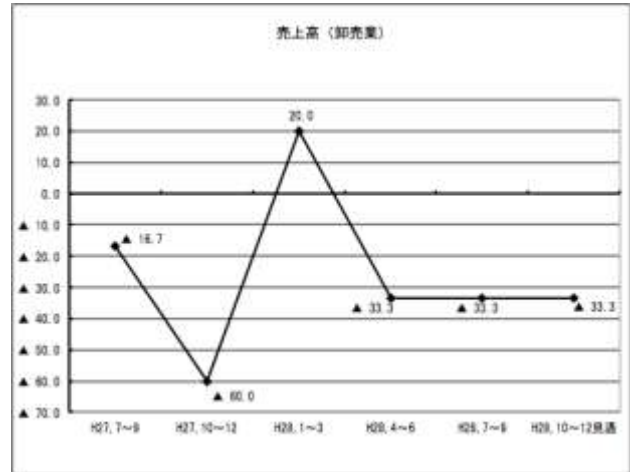
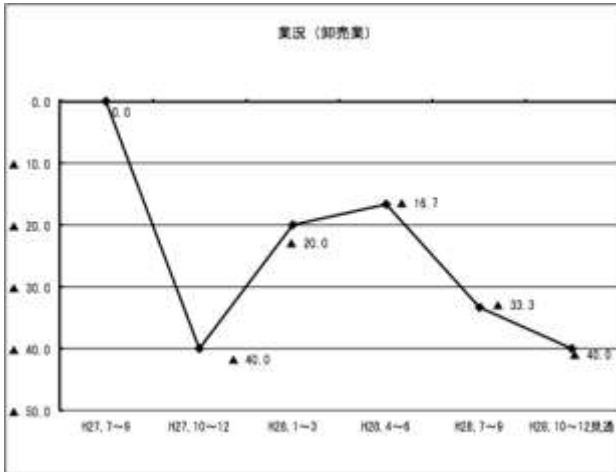
卸売業

卸売業の業況DIは▲33.3となり前回調査に比べて16.6ポイントの低下である。平成27年7月～9月期に±0.0となったのを最後に過去1年間はマイナスの数値が並んである。卸売業の業況に明るい兆しが見えてこない状態である。10月～12月期見通しも▲40.0と今回実績をさらに下回っており、厳しい状況は続く見通しになっている。

売上高DIは▲33.3で前回調査と同じであった。平成28年1月～3月期が突出して良い数値になっているがそれ以外は厳しい状況が見えてくる。10月～12月期見通しも▲33.3で明るさのない見通しである。

採算DIは▲33.3で前回調査と同じであった。採算DIは平成27年7月～9月期に0.0となってから以後マイナスの数値である。業況、売上高と並んで厳しい状況が続いている。10月～12月期見通しも▲33.3で回復の兆しを見ることはできない。

DI資金繰りDIは±0.0で前回調査と同じである。ここ1年は±0.0が続いており資金繰りは安定しているようであったが、7月～9月期見通しは▲16.7となっており安定が崩れることも考えられる。



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全 体	▲ 25.4	▲ 22.2	▲ 31.3	▲ 27.3	▲ 26.9	▲ 29.2
小売業	▲ 36.8	▲ 41.2	▲ 42.1	▲ 42.1	▲ 42.1	▲ 42.1
製造業	▲ 7.7	▲ 23.1	▲ 15.4	▲ 46.2	0.0	▲ 38.5
建設業	▲ 36.4	▲ 9.1	▲ 18.2	10.0	▲ 18.2	0.0
サービス業	▲ 16.7	▲ 5.9	▲ 38.9	▲ 16.7	▲ 33.3	▲ 25.0
卸売業	▲ 33.3	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3	▲ 33.3

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全 体	9.1	12.3	▲ 36.9	▲ 25.0	3.2	5.0
小売業	▲ 5.6	5.3	▲ 58.8	▲ 47.1	▲ 13.3	0.0
製造業	46.2	38.5	▲ 15.4	▲ 15.4	23.1	7.7
建設業	▲ 9.1	0.0	▲ 36.4	▲ 27.3	18.2	9.1
サービス業	0.0	0.0	▲ 38.9	▲ 33.3	▲ 17.6	6.3
卸売業	33.3	40.0	▲ 16.7	20.0	33.3	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し	7～9 月期動向	10～12 月期見通し
全 体	▲ 22.4	0.0	3.7	▲ 1.9	7.7	2.0
小売業	▲ 36.8	▲ 16.7	0.0	7.7	0.0	8.3
製造業	▲ 11.1	28.6	9.1	9.1	9.1	9.1
建設業	▲ 30.0	10.0	▲ 10.0	▲ 20.0	10.0	0.0
サービス業	▲ 14.3	7.1	7.1	0.0	7.7	0.0
卸売業	0.0	▲ 16.7	16.7	▲ 20.0	16.7	20.0

過去からの動向

